

番組審議委員会議事録

株式会社 衛星劇場

1. 開催年月日 平成 13 年 6 月 26 日（火） 12：00～13：00
2. 開催場所 株式会社 衛星劇場 会議室
3. 委員の出席 委員総数 7 名
出席委員数 6 名（小山観翁、山内静夫、伊藤信太郎、
中村芝翫、堀江ミエ子、田中康義）
欠席委員数 1 名（小林和夫）
4. 放送事業社側出席 5 名（石川富康[代表取締役・副社長]、須田真司[専務取締役・
営業担当]、山崎克巳[取締役・編成担当]、小山宜康[取
締役・広報担当]、長谷川一郎[取締役・営業担当]）
5. 議事の概要
 - ・衛星劇場及びホームドラマチャンネルの現状報告
 - ・2001 年 7 月以降の番組についての説明
 - ・CS110 度問題について
 - ・その他
6. 議事内容
 - 現状報告
 - ・衛星劇場及びホームドラマチャンネルの加入者の推移
 - ・上記加入者に関する分析の報告
 - 番組についての説明
 - ・2001 年 7 月～9 月の編成上のトピック報告
 - CS110 度について
 - ・弊社が参加していくことを報告。しかし、まだ詳細が決定していないために
今後はどう対応していくかを現時点の状況を説明。

(議事詳細)

石川副社長：本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

では、衛星劇場の現状から説明させていただきます。

日本映画が相変わらず元気がない状態が続いています。松竹も自社製作ではなかなか映画を作ることができない現状であります。そんな中、韓国映画がかなり良い伸びを示しています。『シュリ』をはじめとして、弊社が製作出資した『JSA』も好評です。そこで今後は韓国映画がキーとなっていきそうな気がしています。

また、今年の初めから放送していた“インディーズムービー”に、かなりの反響がありました。そこから出てきた北村龍平という監督が今後の日本映画を変えていく一人ですね。反響に応じて“インディーズムービー”は秋からもまた放送していく予定です。

山崎取締役：では、7月の番組から説明させていただきます。

7月の目玉作品は、NHKの朝の連続テレビ小説の映画化『すずらん〜少女萌の物語』、さらに大映特撮映画特集と題して『大魔神』をはじめ全5作品を放送していきます。

8月の目玉作品は山田洋次監督の学校シリーズ第4弾『十五才・学校IV』です。特撮映画特集第3弾といたしまして、新東宝特撮映画特集として、『鋼鉄の巨人』をはじめ全5作品を放送していきます。

9月の目玉は黒木和雄監督特集として、昨年劇場で公開された最新作『スリ』をはじめ、『とべない沈黙』『キューバの恋人』『TOMORROW 明日』の4作品を放送いたします。

小山委員：視聴者からのリクエストには応えてるんですか？

石川副社長：「リクエストアワー」という枠を設けて、できるだけ多くの視聴者の要望に応えていきたいと思っております。しかし、リクエストが来る作品は古くて、素材もどこが持っているかわからないような作品も多く、なかなかすべてに応えていくことができません。ですが、一人でも喜んでくれる方がいらっしゃれば、出来る限りは応えていこうと思っております。また放送をするとお礼の手紙をくれたりと心温まるようなやりとりもあります。

伊藤委員： BS デジタルや CS110 度は、どう見据えていますか？

須田専務： BS デジタルが伸び悩んでいます。機器の値段の高いこともあって、まだ一般的には浸透していったいないのが現状ではないでしょうか。また来年の CS110 度には弊社も参加していく予定であります。まだいろいろなことが詳しく決まっていないので、具体的にどう放送していくかは決まっておりません。サイマル放送となると、現在の衛星劇場のミッドナイトアワーは放送が難しいので、その部分をどうやってうめていくかが課題となっております。また、BS デジタル同様、双方向デジタル放送を期待していますが、データが遅いので 110 度ではそれをどうやって解消していくかが課題となるでしょう。ケーブル局サイドとしては、どうなっていくと思われませんか？

山内委員： ケーブルサイドとしては、今の時点ではあまり期待していません。すべてはコンテンツ次第かなってというのが、率直な感想です。今後の動きに注目していきたいと思いますが。

堀江委員： 調布ケーブルのお客様からもまだ、要望などは出ていません。やはり今後、詳細が決まってからかな、といった感じです。ケーブル局もまずは傍観しているといったところでしょうか。

石川副社長： コンテンツを充実させていけば、自然とお客さんはついてきます。チャンネルなどが増えても結局はお客さんも観るものを絞っていくので、スカパーも伸び悩んでいます。観たいものは何をしても観ると思うので、そういった作品を放送していくこと、お客様のニーズに応えるていけるようなソフトを集めることがやはり重要なことではないかと思えます。

田中委員： 現在、決まっている出資作品や、放送権利を買ったものを教えてください。

山崎取締役： 出資作品は韓国映画『JSA』『リベラ・メ』、平山秀幸監督『ターン』、鈴木清順監督『ピストルオペラ』、カンヌ映画祭に出品した今村昌平監督の『赤い橋

のぬるい水』、高橋伴明監督『光の雨』、三池崇史監督『カタクリ家の幸福』、本上まなみ主演の『群青の夜の羽毛布』などです。

放送権を持っている作品は、『超速伝説 ミッドナイト・チェイサー』、和泉聖治監督『悪名』、インディーズムービーから出てきた北村龍平監督最新作『VERSUS』、ろう女優の忍足亜希子主演最新作『アイ・ラブ・フレンズ』などがあります。

石川副社長：今後とも衛星を取り巻く環境は、一段と厳しくなっていきますが、審議委員の方々の貴重なご意見を活かして、より一層頑張っていきたいと思っておりますので、何卒よろしく願いいたします。

7. 審議期間の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特になし

8. 審議期間の答申又は意見の概略を公表した場合におけるその公表内容、方法及び月日

特になし

9. その他の参考事項

特になし